四門会

第14号

聖マリアンナ医科大学
耳鼻咽喉科学教室同門会

目次

巻頭言

大学病院の魅力……教授 肥塚　泉　2

ご挨拶

平成18年度医局長挨拶……医局長 服部　康介　3

本院、東横、西部、多摩病院外来担当表 ……4

就任挨拶

川崎市立多摩病院　耳鼻咽喉科部長挨拶……堤　康一朗　6

聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院耳鼻咽喉科部長に就任して……岡田　智幸　7

大学院生便り

大学院便り……深澤　雅彦　8

海外留学報告

セントルイスのWashington Universityの Physics and biophysics に単身留学してきました。
……渡辺　昭司　9

日本耳鼻咽喉科学会に参加して

第107回日本耳鼻咽喉科学会報告……小宅　大輔　10

日本めまい平衡学会夏期セミナー報告……岡田　智幸　11

我が聖マリアンナ医科大学創立35年記念式典・祝賀会開催さる……岡田　智幸　12

医局便り

近況報告…今日このごろ……高橋　佳孝　13

第17回ECROに参加して……井原　佳美　13

初期臨床指導医養成ワークショップに参加して……木下　裕継　14

OB通信

「開業医雑感」……金子　卓爾　15

新入医局員紹介

耳鼻咽喉科に入局して ……及川　貴生　16

同門会会則……17

第９回理事会議事録 ……19

編集後記……岡田　智幸　20

題字 竹山　勇

巻頭言

大学病院の魅力

肥塚　泉

若い医師たちの大学離れ現象が日本全国で生じている。大学に勤務すると、とにかく忙しくて雑用が多い。当直もあり、その翌日も当たり前のように働かなくてはならない。不眠不休の日々が続く。一方給料といえば、一般の人たちには絶対信じていただけないような安さ、「こんなの悪条件下で働くなんてありえない」、というのが若い医師たちの本音である。近年の患者さんたちの医療、特に大学病院に対する不信感もこれに拍車をかけている。私自身も患者さんによく「教授の先生だったら年収3,000万円位あるんでしょうね」と言われ、そのたびに大学勤務医の実態を懇切丁寧に説明し、「いかにコストパーフォーマンスが悪い職業であるか」について、ことあるごとに説明している。先日あるバラエティー番組で、都内某有名私立大学のアメリカ帰りの心臓外科医が、大学勤務医がおかれている過酷な状況を切々と訴えていた。彼はアメリカにいたときは年収8,800万円だったそうである。大学に請われて帰国したが帰国後、彼の生活は一辺倒したそうである。とにかく会議と雑用が多い。年収は11分の１の800万円（税込み）に減ったそうである。「あと１ヶ月は“気力”で頑張るつもりだが、冗談じゃない」というのが彼の意見であった。残念ながらこのバラエティー番組に出演している芸能人たちには彼の意見は全く取り入れてもらえず、ひたすら医療の荒廃を叫び続けるという状況であった。この番組では他に、「今の医者は勉強不足でその結果、患者さんたちは無駄かつ誤った治療を受けている」ということを執拗に訴えていたが、アメリカの医師たちと違って（もちろんアメリカのレジデントたちは激しい生活を送っているが）、日本の医師、特に大学に勤務する医師たちは、あまりにも雑用（はっきりいって無駄な）が多すぎて、医療や勉強に時間を割くことが困難であるという実情を彼は切々と訴えていた。

私はこの番組を見ながら、大学で働く魅力とは何であるかを考えていた。昔は「足の裏の飯粒」（取らないと気になる）と言われた学位についても専門医志向が高まった結果、「感染を繰り返さないGrade Ⅰの扁桃」（取らなくてもよい）にまで成り下がってしまったし、厚生労働省も臨床医の育成を主眼に研修システムの大幅な改正（改悪）を実施した結果、臨床研修指定病院であればどこでも（書類上は）ある一定レベル以上の研修を受けることが可能となった。当然のことながら、同じレベルの研修を受けることができるのであれば、少しでも給料の高い病院でという傾向が当然のごとく定着してしまった。

大学で研修を受けるメリット、大学勤務医を続けていく魅力、メリットは何なのか？最近、自問自答を繰り返す毎日が続いている。四門会の先生方のお知恵をお借りしたいというのが切なる願いである。

ご挨拶

平成18年度医局長挨拶

医局長　服部　康介

４月より医局長を勤めさせていただいております平成７年度入局の服部です。大学院卒業後、平成14年より４年間秦野赤十字病院耳鼻咽喉科に勤務しておりました。当初１年間は常勤医一名体制でしたが、その後大学を退官された大橋教授と共に３年間働かせていただきました。私にとって公私共にとても意義のある大切な期間となり、大橋先生を始めお世話になりました皆様には心より感謝致しております。

平成17年度の本学における大きな出来事として、長年地域医療に貢献してきた東横病院の終了と、川崎市立多摩病院の開設があります。この病院は公設民営の指定管理者制度のもとに、本学が私立医科大学として全国で初めて管理者に指定され運営するものです。大学本院、横浜市西部病院とともに三本柱の一つとして今後の活躍が期待されるところです。

医局の慶事として、多摩病院、西部病院の部長を勤めておられる堤　康一朗先生、岡田智幸先生の助教授就任があります。これまでも教室運営に力を尽くしてこられた両先生の就任は医局体制の強化にも繋がり、医局員一同大変心強く感ずるところです。

昨今の臨床研修制度の変化に伴い、卒後研修中２年間の研修医は特定の科に入局することが無くなりました。研修を義務付けられていない科への興味を持つ機会は激減し、研修終了後の入局者数は数年前に比べて明らかに減少しております。また医大卒業生が母校に入職することなく他の医療機関に流出することが当たり前の時代がやってまいりました。これらにより医療機関別、科別医師数のアンバランスは本学のみならず社会現象とまでなっております。慢性的な人手不足を払拭し、未来の医局を担う人材を確保するためには大学の内外から大々的に募集を行う必要があります。これまで以上の魅力ある医局の実現、働きやすい環境の整備が不可欠であると痛感する次第です。10年後、20年後の医局のため、後輩のためにも与えられた責務を全うすべく努力を誓う今日この頃です。

耳鼻咽喉科外来担当表　平成18年11月現在

＝専門外来等、（　）内の数字は何週目かを示す

		月	火	水	木	金	土
午前	初診	肥塚 服部	木下	渡辺	服部	矢野	木内
	再来	北島 井原 （三上）	井原 春日井 山口	大塚 山口 斉藤	矢野 三上 山口	井原 斉藤	大塚 赤澤 春日井
	特殊	中耳・顔面 神経外来	頭頸部・ 腫瘍外来	喉頭・ 音声外来	喉頭・ 音声外来	めまい外来	味覚外来
		（肥塚） 木内 （服部） 菱澤	渡辺 大塚 赤澤	赤澤 春日井 信清（4）	岩武（1,3）	肥塚 服部 北島 向出（2,4）	大草
	病棟当番	春日井	斉藤	井原	山口	三上	斉藤
	救急当番	三上	井原	山口	矢野	斉藤	春日井

午後	特殊	中耳 木内		鼻・副鼻腔 アレルギー	聴覚	
				木内 斉藤 三上 宮部（2,4） 黒田（1,3）	木下 山口 越智（1,3） 釼持（2,4,5）	
	めまい検査	赤澤	斉藤			
	救急当番	三上	山口	春日井	三上	救急当番

西部病院

TEL：045-366-1111　FAX：045-366-1190

＝専門外来等、（　）内の数字は何週目かを示す

耳鼻咽喉科						
	月	火	水	木	金	土
午前	岡田 智幸 小宅 大輔 深沢 雅彦	岡田 智幸 宮澤 秀雄 小宅 大輔	岡田 智幸 深沢 雅彦 芋川（2・4）	富澤 秀雄 小宅 大輔	岡田 智幸 富澤 秀雄 深沢 雅彦	岡田 智幸 富澤 秀雄 小宅 大輔
午後	中央手術	中央手術	中央手術	検査	検査	

多摩病院

TEL：044-933-8111　FAX：044-930-5181

耳鼻咽喉科						
	月	火	水	木	金	土
午前	新谷 敏晴 鈴木 一輝	堤 康一朗 新谷 敏晴	新谷 敏晴 鈴木 一輝	手術	堤 康一郎 鈴木 一輝	
午後				手術		

関連病院

平成18年4月現在

西部病院	岡田　智幸 富澤　秀雄 小宅　大輔 深沢　雅彦	TEL 045－366－1111 FAX 045－366－1190
多摩病院	堤　康一朗 新谷　敏晴 鈴木　一輝	TEL 044－933－8111 FAX 044－930－5181
聖ヨゼフ病院	信清　重典 中村　　学	TEL 046－822－2134 FAX 046－822－3134
東芝林間病院	黒田　寿史 東　　美紀	TEL 0427－42－3577 FAX 0427－42－6121
稲城市立病院	萎澤 えり子 高橋　佳孝	TEL 042－377－0931 FAX 042－379－1310
済生会川口総合病院	杉山　　裕	TEL 048－253－1550 FAX 048－253－8319
島田総合病院	内田　　登	TEL 0479－22－5401 FAX 0479－23－3613
水戸済生会総合病院	岡本　充史 及川　貴生	TEL 029－254－5151 FAX 029－254－9099
横浜総合病院	桑原　大輔 田中　泰彦	TEL 045－902－0001 FAX 045－903－3098
秦野赤十字病院	俵道　　淳 高津　光晴	TEL 0463－81－3721 FAX 0463－82－4416
共立蒲原病院	宮本　康裕 向出　光博	TEL 0545－81－2211 FAX 0545－81－2208
財団法人癌研究会	新橋　　渉	TEL 03－3520－0111

就任挨拶

川崎市立多摩病院　耳鼻咽喉科部長挨拶

堤　康一朗

現在、本年（2006年）２月１日に開院した川崎市立多摩病院に耳鼻咽喉科部長として勤務しており、この機会に多摩病院の簡単な紹介をさせていただきます。川崎市立多摩病院は公設民営の指定管理者制度によって学校法人聖マリアンナ医科大学が運営する総合病院で、「急性期医療」、「救急医療」、「小児救急医療」、「災害時医療」を中心とした、［プライマリーケアの最前線］として、亀谷学病院長のリーダーシップのもと全職員が前進あるのみの心意気で診療にあたっています。開院からの半年間には、患者さんである市民の皆様から、病診連携となる地域の医師会および歯科医師会の会員の先生方から、病病連携となる病院の先生方から、介護老人保健施設や訪問看護ステーションなどの福祉・介護保険関連施設から、など様々な方面からの声が我々に届きましたが、どの声にも共通する認識は、市立病院として、また聖マリアンナ医科大学として、この両面に対する意見と期待が混在し、指定管理者制度の難しさを実感させるものでした。今後とも、川崎市立多摩病院が、［プライマリーケアの最前線］の中で、“市民に開かれた、かつ最良の医療スタッフを育てられる病院”としての地位を確保できるよう、我々“耳鼻咽喉科”も、十分に機能していくよう努力したいと考えております。皆様方の暖かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 耳鼻咽喉科部長に就任して

岡田　智幸

平成18年７月１日付けにて、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科助教授とともに聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院耳鼻咽喉科部長を拝命いたしました。昭和59年３月に聖マリアンナ医科大学を卒業後、マリアンナばかりではなく、他大学出身の諸先輩方や後輩の先生方にお世話になりっぱなしで、気が付いたら20年が過ぎた感があります。

まず、大学院２年目に、同級生（８回生）の上杉恵介先生の後、KO系の稲城市立病院に出向３年３か月、服部光男院長はKO出身の脳外科でJOCのメンバー、「耳鼻科のスポーツドクターが足りないので、日本体育協会公認スポーツドクターと、顧問医が廃止されるので何かと便利な産業医を取れ（当時の日本医師会の流れは、「健康保持・増進」を掲げ、健康スポーツ医や日本医師会認定産業医の資格化、更新制度の確立でした。スポーツドクターは、日本体育協会、日本医師会と日本整形外科学会が、スポーツドクターの研修システムをそれぞれ考えておりましたが、基礎研修は同じプログラムで行い、後期研修は、それぞれの団体に任されつつあると行った段階でした。）」と指示されました。大学院修了後、１年の大学勤務の後、銚子の島田総合病院に出向２年、院長はＪ医大出身で、我が聖マリアンナ医科大学２代目学長戸栗栄三先生の直弟子の嶋田賢先生、「何でももらえるものはもらえ」と教育されました（戸栗先生も同様）。結局、銚子出身の家内と結婚しました。１年10か月後、英国のUCL（University College London）にあるMRC（Medical Research Council）の神経耳科学部門に留学し、回転感覚（回転の感じ方：Vestibular perception）を現在のImperial Collegeの Prof AM BroinsteinやProf MA Gresty、National HospitalのProf Linda M Luxon（写真１）に学びつつ、可愛がっていただきました。当時、BPPVで有名なThomas LempertもBPPVの研究を行っていました（写真２）。

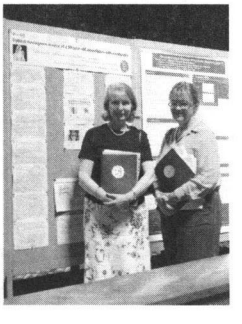


写真１　National HospitalのProf Linda M Luxonと共に
左：IFOS Meeting (2005, Rome)
右：Bearany Society Meeting (2006, Uppsala)　私の発表ポスターの前で

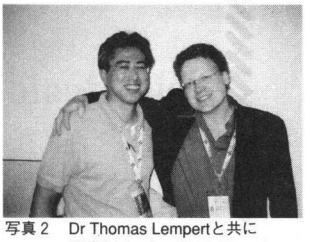


写真２　Dr Thomas Lempertと共に
(IFOS Meeting 2005, Rome)

これら出向や留学先の先生方は、どんな些細なこと、枝葉のデータでも大切にし、自分のデータあるいは自分にプラスになるよう自分自身で体得するよう仕向けるということを教わったと思います。これは、入局してからの竹山　勇教授、加藤　功教授が一貫しておっしゃっていたことと同じ雰囲気でした（身内にいわれたその時は？で、他人にいわれて初めて理解されるといったところです）。

私が入局してからの日耳鼻の流れも、出向先の他大学出身の他診療科の院長のおっしゃった通り、流れていっているようで、「騒音性難聴担当医」、「産業医」、「労働衛生コンサルタント（保健衛生）」の取得（竹山教授に、これからの時代、新設私学出身の医者はもの申せるように、「全部資格」を取れといわれ、「そんなのできますか」と思いつつ、取得することができました）、今専門としている、めまい平衡医学会では「スポーツ医学（平衡トレーニング）」の研究でした。その後、Subjective Visual Vertical、Subjective Visual Horizontal 等のPerceptionの時代が到来しています（結局、結婚式の前日までかかって、体協公認のスポーツドクターも取ることができました）。

「健康保持・増進と快適生活（Amenity Life）の時代」が到来したといわれております。疾病診療と健康保持・増進は内科、外科。さらに次は、快適な日常生活を営むために、鼻づまりを治したい、臭うようにしたい、聞こえをよくしたい、味わいたいなど「五感」に関する診療が必要となってきます。つまり、「正に、我が耳鼻科時代の到来だ」と思われます。

いろいろな私が取得した知識、研究成果をふまえ、そして、IT時代の到来とともに知識とは程遠い情報で混乱した頭（テスト前の学生と同じ）の患者さんのニーズにあった私独特の「間」のある診療を目指していきたいと思います（「なんちゃって診療」にならぬよう努力したいと思います）。

ご指導・ご鞭撻の程、宜しくお願いいたします。

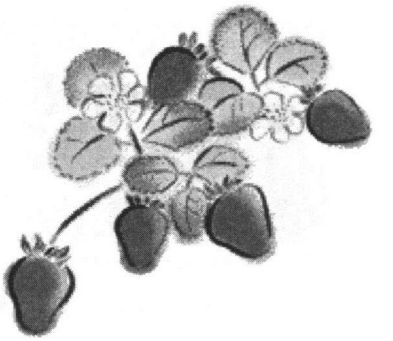
大学院生便り

大学院生　深澤　雅彦

私は現在、聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院に勤務させていただき、岡田部長のもと、富澤先生、小宅先生に直接ご指導をうけながら、日々臨床に携わっております。また、佐藤先生、鳥越先生、芋川先生、釼持先生にも西部病院に来た際にご指導いただいており、大変恵まれた環境で勉強させていただいております。

また、今年度より耳鼻咽喉科学教室大学院に入学させていただきました。大学院は、土曜日に難治研へ行き、中村先生、田中先生、島田先生にご指導いただいております。まだ何も行っておりませんが、現在はBradford法を用いたタンパク質の定量や、二次元電気泳動を用いたタンパク質の解析などを行うことで、ピペットの使い方から、試薬の作り方、扱い方などを学びながら、プロテオミクスについて触れているといった状況です。

これからが本当の意味での自分の実験のスタートであり、前途多難だとは思いますが、全力で取り組んで生きたいと思います。これからもご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。



セントルイスの Washington UniversityのPhysics and biophysicsに単身留学してきました。

渡辺　昭司

セントルイスの Washington University の Physics and biophysics に単身留学してきました。Dora Angelaki 教授のもとで前庭核から電気信号を拾っていました。僕がここで働くことになったきっかけは、Angelaki 教授が僕が服部君と日本でやった前庭核の適応現象の英語版の論文を見て、なんと、e-mail で勧誘があったことでした。肥塚先生と相談し、いいチャンスだから僕のぶんまで実験してきてや、と送り出されました。感謝、感謝です。

研究室に行ってみるとそうやって世界各国から集められた人達だらけでした。IT時代ですよ！実験も僕が体験した実験の仕組みとはまったく違うものでした。今まで僕は自分で動物を扱って調教し手術をしてユニットを拾いデータを解析して論文を書いていくというあたりまえのことが研究生活だと思っていましたし、この観念は正しいと思います。しかし、現代アメリカの第一線の研究室では事情が違っていました。実験の過程を細かく分けてすべて分業します。今まで自分の力だけでやっていたことを７－８人に分業するのです。仕事は楽になるかといえば逆で仕事量は10倍くらいに増えてしまうのです。つまり、考える時間をつくらないでどんどん実験ができるのです。データは面白いようにたまり、解析係りが解析していきます。教授は寝る間もおしんで論文を書いています。こうしてできる論文の量はものすごいです。僕は一日に12時間脳幹からユニットを拾うのが義務でした。ものすごくハードに働いた、というのが実感です。厳しい仕事でしたが、それだからこそたくさんの友達ができました。助け合わないと生きていけない感じがありました。

僕の背中をドーンとたたいて気持ちよく送り出してくれた肥塚先生にこの紙面を借りてお礼を申し上げます。医局で腫瘍班をやりくりしてくれた信清、大塚、赤澤、ありがとうよ。おかえしに手術をたくさん教えるからな！

第107回 日本耳鼻咽喉科学会報告

小宅　大輔

平成18年5月11日～13日に第107回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会が開催されました。当日は小雨混じりの日が多かったのですが、参加者も多く前回までの総会と同様に、とても盛大なものでした。

本大学からは、臨床セミナーの「めまい臨床の最前線」で肥塚教授が良性発作性頭位めまい症の診断と治療、難治例への対応について御講演され、良性発作性頭位めまい症の診断のキーポイントとなる回旋性眼振発現機構について、眼球運動画像を用いて御講演されました。当日は、会場に聴衆が入りきれない程の大盛況でした。

一般演題では、467題という多数の演題の中、本大学からは岡田先生・釼持先生・小宅先生・斉藤先生が演題を登録し、厳しい質問に耐えながら無事に発表を終了しました。

個人的には、特別講演の東京医科学研究所の中村祐輔教授の「ゲノムが開く21世紀の医療」に深く感銘を受け、私が大学院での研究時代に大いに影響を受けた先生の一言に深く共感しました。やはり世界レベルの方のパワーは違うなと思いました。

私は、第105、106回と3年連続での演者としての参加ですが、本学会はとても勉強になり、毎年多くの刺激を受ける学会です。これからも可能な限り参加していきたいと思います。

日本めまい平衡医学会夏期セミナー報告

岡田　智幸

毎年７月に開催される日本めまい平衡医学会主催の夏期セミナーが開催されました。

新専門会員紹介

伊澤佳子（いざわよしこ）（東京医科歯科大学　システム神経生理学）
「固視の神経機構」

角田篤信（つのだあつのぶ）（東京医科歯科大学　耳鼻咽喉科）
「めまい平衡医学から見た中頭蓋窩形態について」

今井貴夫（いまいたかお）（関西労災病院　耳鼻咽喉科）
「Video-oculographyによる眼球運動三次元軸解析」

松崎真樹（まつざきまさき）（東芝病院　耳鼻咽喉科）
「音響刺激によりモルモットの頸部に誘発される電位に関する研究

シンポジウム

メニエール病の治療戦略-基礎研究と臨床研究の接点を求めて－
下郡博明（山口大）、柿木章伸（高知大）、北原　糺（大阪大）、中山明峰（愛知医大）

特別講演

「ミュータントマウスを用いた小脳による反射性眼球運動制御機構の解析」
平野丈夫（京都大学理学研究科生物物理学教室教授）

諸先生方のご演題は、それぞれ大変興味深いもので、一つ一つをご紹介するのは紙面上、拘束があり演題名のみにとどめたいと思います。

ただ、上記の諸先生方が、これからのめまい平衡医学会をリードしていく先生方ですので、お名前だけでも頭の片隅に置いていただければ。と思います。

我が聖マリアンナ医科大学 創立35年記念式典・祝賀会開催さる

岡田　智幸

去る平成18年10月14日（土）開学記念日に、新横浜プリンスホテル４階「千鳥」に於いて、創立３５周年記念式典が挙行された。司会は、田所衛医学部長のもと、明石勝也理事長（本学６回生）が式辞を述べられ「キリスト教的人類愛にもとづく、生命の尊厳」が、我が聖マリアンナ医科大学の創立理念であることを、改めて来賓・職員の前で示された。

青木治人学長の挨拶の後、来賓祝辞には、文部科学大臣伊吹文明氏の代理の結城章夫事務次官、松沢成文神奈川県知事、阿部孝夫川崎市長、中田宏横浜市長、唐澤祥人日本医師会長、吉岡博光日本私立医科大学協会副会長など名だたる錚々たるメンバーから御祝辞を賜り、行政から本拠地川崎市のみならず西部病院のある横浜市そして神奈川県の我が聖マリアンナ医科大学への期待度の高さが感じられた。今回、日本医師会長と私立医科大学協会副会長が参集され、もはや我が聖マリアンナ医科大学は新設医科大学ではないという印象を内外に発信する機会となったことも事実である。

祝賀会は、５階「シンフォニア」で行われ、式典参加を含め延べ1,400名を超す、内外関係者、職員、同窓生が集い、大盛況であった。

さらなる本学の全学挙げての診療・教育・研究の充実発展に邁進することに期待する。

医局便り

近況報告…今日このごろ

稲城市立病院
高橋　佳孝

今年４月から稲城市立病院に赴任し、はやくも年の瀬を迎える時期になってしまいました。萎澤医長のご指導を仰ぎながらせっせと日常診療に精を出している今日このごろです。

今年は自分にとって２つの喜ぶべき大きな出来事がありました。ひとつは専門医受験、そしてもうひとつは第１子となる長女「心花（ここな）」の誕生です。９月末から10月上旬、この時期は妻の出産予定日と専門医の合否発表が重なり、毎日地に足が着かないというか、心ここにあらずといった感じでした。２つの吉報が飛び込んできたのはこんな時でした。特に長女心花の誕生は人生において大きな転機となりました。昨年結婚後妻と２人の生活から３人目の家族が増え、父としての自覚と責任感を今まで以上に痛感する毎日が続いています。夜泣きにも悩ませられていますが、にこりとされると全部吹っ飛んでしまうのは親バカだからでしょうか？いずれにせよ家庭というものが働くということの糧となったのは確かです。

研究の方では肥塚教授のご指導のもと「平衡機能障害患者の歩行解析」をテーマにデータ集積に勤しんでいます。いいデータがなかなか得られず四苦八苦といったところですががんばっていきたいと思います。

公私ともに転機となった今年の勢いそのままに来年以降もがんばっていければと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

第17回ECROに参加して

井原　佳美

2006年９月５日から８日にスペインのグラナダで開催された第17回ECRO（17th congress of the European Chemoreception Research Organization）に参加させていただきました。参加メンバーは肥塚教授と私の２名でした。

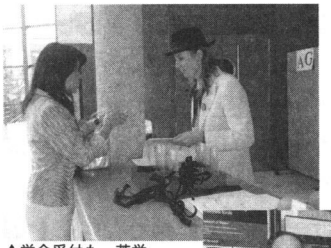
発表は、ヨーロッパ（主にドイツ）で用いられるSNIFFIN' STICKSというフェルトペン型嗅覚検査器具を日本人200名に試用した結果の検討についてでした。嗅覚の世界で有名なドイツやアメリカの先生方とお会いすることができ、また発表内容について具体的なアドバイスを頂き、大変有意義な時間を過ごせたと思います。また、同年代の海外の研究者と知り合いになれたことも、大きな収穫でした。

電子顕微鏡写真や複雑な化学式で埋め尽くされた難しい基礎研究のポスターだけでなく、アロマセラピーや旨みといった生活の質に関連する内容のポスターもあり、より質の高い快適な生活を望む現代社会では、嗅覚・味覚は多方面からの関心の高い幅広い研究分野であることを改めて実感しました。

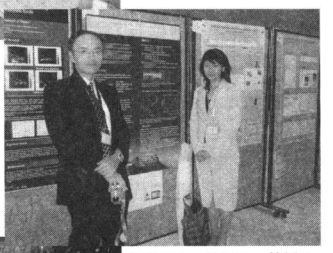
また、学会最終日前夜に開催されたディナーでは、各テーブルに番号のついたハーブが置いてあり、簡単なクイズ形式となっていて、いかにも味と匂いの学会らしい演出だと感心しました。バジル、タイム、セージ、ミント、ローズマリー、ラベンダー、ローレル、カモミールなど料理によく用いられるハーブですが、名前は知っていてもハーブそのものを知らない私は、いくら匂いをかいでも、ほとんど正

解にたどりつけませんでした。一方、母（娘の初国際学会参加が心配という理由で同行した!?）は医学・嗅覚に関してまったくの素人ですが、ハーブを手に取るなり、名前だけでなく、効能や効果的な使用方法をすらすらと答えてしまいました。自分の発表のなかで、選択肢から実物が想像しくいものは、嗅覚の認知が難しいということを考察しましたが、身をもって再認識しました。

グラナダ。それは、以前スペイン旅行をした際、いつの日かまた訪ねたいと強く願った場所でした。多くの方々のご協力により、学会発表という形でグラナダを再び訪れることができましたことを心より感謝いたします。



↑学会受付も一苦労。



↑ポスター前にて。教授とともに。

←GALA DINNERにて。母と。

初期臨床指導医養成ワークショップに参加して

木下　裕継

9月8、9日に第8回初期臨床指導医養成ワークショップに初めて参加してきました。この研修の目的は、初期臨床研修の質を高めるためのプログラム立案、推進し、基本的能力を備えた研修医を育成する人を作るため、指導医は実際どのように研修医を養成するかを学習することです。

厚生労働省の指導では2泊3日の予定で行われる内容を、日常業務に影響の少ない週末を利用するため、1泊2日に短縮し、初日は22時まで、翌日も朝8時から16時までと、食事以外の休憩がほとんどないハードなスケジュールでした。セッションを行うための受講、グループセッション、発表、検討と続き、ただ座っているだけというわけにいかず、すべて参加型の授業で、当大学の4年生が行っている授業形態とよく似ています。学生時代はほとんどの授業は講座形式でしたので、慣れないこともあり、医業とはちがう緊張感を覚えました。

現在、研修医のマッチングが行われるようになって、大学病院は人材の確保が以前に比べ、難しくなりました。医者が卒業時、就職活動と無縁だった頃とは違い、学生時代に研修施設の環境や、指導内容を吟味するようになりました。その結果、より良い研修プログラムや研修環境の改善が行われないと、若い医師たちが大学に残らなくなってしまうのです。若い医師が残らなければマリアンナの未来はありません。往復のバスが出て、食事つき無料ですから、マリアンナにしては待遇がよすぎます。大学が一生懸命なのもわかります。

私が研修医だった頃、いや10年ほど前までは、仕事もプライベートも無く、研修医は黙って上級医師についていくだけでした。今は、違います。研修医は、マッチングにより病院により選ばれた立場として、良い指導を受ける権利を持って、臨床研修に臨みます。

指導医は、研修医の問題点を明らかにし、解決方法を検討し、指導していく指導方法。2日間、このことについてしっかり教わりました。このように教育、指導の徹底した環境での研修が終えた研修医たちは、選択肢が多く、積極的な、賢い研修医なら間違いなくうまくいくと思います。でも、できの悪かった自分が、もし今、研修医だとしたら……かもしれません。

OB通信

「開業医雑感」

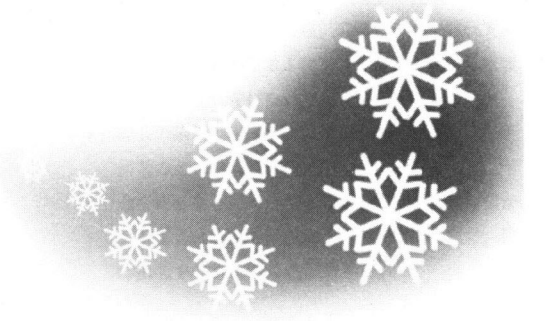
金子　卓爾

横須賀市内で開業して早いもので、約8年となりました。近隣の諸先生のご助言を頂きながら、大きなトラブルもなく何とか診療しております。

しかし、開業時と違って診療所に対する患者さんのニーズは著しく変化し、対応に苦慮する問題が数多く起こっています。『要求すればなんでも手に入る』或いは『言ったもん勝ち』の風潮が背景にあるようです。先日、校医をしている高校の生徒とキレた母親が夕方来院しました。校内のけんかで打撲し軽度の鼻屋の腫れがありましたが、視診上では鼻骨骨折の可能性はないため、腫脹が消失した後に必要があればCTを撮るようにと説明しました。しかし、母親は「平日は仕事のため総合病院に依頼して緊急に撮影するように」と執拗に食い下がられました。一方、予め痛みの伴う治療であることを告げて処置した患者さんが、後になって憤慨し何度も謝罪を要求される例など。押し寄せる理不尽極まる要求や苦情（イチャモン）を日常的に経験するようになりました。社会の多用に積み重なったストレスのはけ口のひとつとして、診療所が選ばれているようです。そして、こうした状況は年々深刻化しています。

このような社会環境のなかで、“イチャモン”をかわしながら、日々のストレスを留め診療しております。これからの長い年月、自分自身の健康ややる気を継続できるか不安や心配は尽きません。しかし、感謝して下さる患者さんを励みに、萎縮せずに信念を持って診療を行い、地域医療に貢献したいと思います。

最後に、ますますの医局の発展をお祈り申し上げます。



新入医局員紹介

耳鼻咽喉科に入局して

及川　貴生

２年間の初期臨床研修を修了し耳鼻咽喉科医として水戸済生会総合病院に勤務して約半年が経ちました。当初は不安だらけの外来診療にも少しは慣れてきました。

普段の生活ですが外来診療を週６コマ、手術日は週３回(火・木・金)で平均約５件の手術を行い、入院患者は腫瘍を含め平均20～30人前後と非常に密度の濃い臨床経験をさせていただいています。また月１回の水戸頭頸部懇話会では筑波出身の先生方と症例検討を行い非常に刺激を受けています。

当直に関しては内科系・外科系それぞれ一人ずつの２名で耳鼻科は外科系に入ります。夜間救急外来の診療にあたり当初は不安もありましたが昨年の夜間救急研修における初診医の経験が生きていると実感しています。

さて水戸市についてですが良くいえば田舎悪くいっても田舎です。物価も安く食事はおいしい物が多いと思います（納豆・うなぎ・アンコウetc）。娯楽施設はほとんどなく少し離れた大洗水族館、またゴルフ場、パチンコ屋がとにかく多いことくらいでしょうか？？

とにもかくにも東北の田舎町出身の私には非常に水戸は住みやすく快適な暮らしを送っています（ただ最近尊敬する岡本の兄貴が御結婚してしまいやや寂しくなりましたが・・・）。

話がそれましたが今後は日々の診療を通して一日も早く諸先輩方のような立派な耳鼻咽喉科医なれるよう努力していきたいと思います。何かとご迷惑をおかけすることと思いますがご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会会則

第1章　総　　則

第1条（名　称）

本会は、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会と称する。

本会は、通称を四門会と称する。

第2条（事務局）

本会は、事務局を聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室内に置く。

第2章　目的および事業

第3条（目　的）

本会は、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室の進歩発展と学術事業に対する援助を行うとともに、会員相互の学術研鑽並びに親睦を図ることを目的とする。

第4条（事　業）

本会は、前条の目的を達するために、次の事業を行う。

（1）学術研究会および講演会等の開催

（2）総会および親睦会の開催

（3）四門会誌・名簿・その他出版物の発行

（4）聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室の後援

（5）その他、本会の目的を達成するのに必要な事項

第3章　会　員

第5条（会員）

本会は、次の者をもって会員とする。

（1）聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室在籍者

（2）聖マリアンナ医科大学関連教育病院耳鼻咽喉科在籍者

（3）本会の目的に賛同し会長あるいは理事会において承認された者

第6条（会員の入会手続）

（1）本会に入会を希望するものは、所定の申込書に年会費を添えて本会に提出し、理事会の承認を得なければならない。

（2）前条（3）項に該当する者は、会長あるいは理事会の推薦を得た後、所定の申込書に年会費を添えて本会に提出し、総会で承認を得なければならない。

第7条（会　費）

（1）会費は細則に定めるところにする。

（2）会費は前納とする。

第4章　役　員

第8条（役員）

本会は会長1名、副会長1名、理事数名、事務局長1名、監事2名を置く。

第9条（役員の任期）

（1）本会の役員の任期は、原則としてその都度議を得るものとする。ただし、再任を妨げない。

（2）役員に欠員が生じた場合、補欠役員がその職務を行う。

補欠役員の任期は、前任者の残任期間とする。

（3）役員は、その任期満了後でも後任者が就任するまでは、その職務を行う。

第10条（役員の職務、権限）

（1）会長は本会の代表し、会務を総括する。

（2）副会長は会長に支障が生じた場合、その職務を代行する。

（3）理事は理事会を構成し、この会則に定めるものの他、本会の業務を議決し、業務を執行する。

（4）監事は本会の業務ならびに会計を監査する。

（5）事務局長は理事会のもとに事務局を統括し、会務の遂行にあたる。

第11条（役員の選任）

（1）理事および監事は会員により推薦され、理事会の議を得て、総会にて承認得たものとする。

選出の方法は細則による。

（2）理事の中に推薦理事と名誉理事を置き、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室代表教授をこの推薦理事とする。また、教授退任後は名誉理事とする。

（3）会長、副会長は理事の互選とする。

監事は理事および事務局長を兼ねることはできない。

第5章　会　議

第12条（総会）

（1）総会は年1回会長が理事会の議を経て、これを召集する。

（2）総会は会員の3分の1以上の出席（委任状を含む）をもって成立する。

（3）総会において会長は議長とし、事業計画ならびに収支予算についての事項、事業報告および収支決算についての事項および本会の運営に関する重要事項の承認を受けなければならない。

（4）総会の議決は出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長が定める。

（5）会長が必要と認めた場合、あるいは会員の要望がある場合において、会長は理事会の議を経て、臨時総会を召集することができる。

第13条（理事会）

（1）理事会は会長がこれを召集する。

（2）理事会は現理事数の3分の2以上の出席（委任状を含む）をもって成立する。

（3）理事会において会長は議長となり、本会の事業を企画し、必要な一切の事項を審議し運営する。

（4）理事会の議決は出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長が定める。

（5）監事は理事会に出席し意見を述べることはできる。ただし、票決に加わることはできない。

第6章　事務局

第14条（事務局）

（1）本会の一般業務を処理するために、本会の事務局内に事務局を置く。

（2）事務局の構成は事務局長1名、事務局員若干名とし、選出方法は、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室医局に一任する。

（3）事務局長は理事会に出席する。

第7章　会　計

第15条（本会の経費）

本会の経費は会費、寄付金、その他の収入をもってあてる。

第16条（会計年度）

本会の会計年度は毎年10月1日に始まり翌年9月30日に終える。

第8章　会則の改正

第17条（会則の改正）

本会則を改正するには理事会の審議を経て、総会の出席者の3分の2以上の議決を得なければ変更することができない。

第9章　その他

第18条（その他）

本会則を施行するに必要な細則を別に定める。

＜附則＞

第19条（本会則の発効）

本会則は平成9年12月1日から発効する。

本会則は平成12年12月2日から発効する。

本会則は平成16年11月28日から発効する。

聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会細則

第1条　本細則は会則第18条によりこれを定める。

第2条（会費）

（1）会費は年会費とし、次のごとく定める。

・聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室および同関連教育病院現医局員の会員は年額5,000円

・その他の会員は年額10,000円

（2）70歳以上の会員に対しては理事会の議を経て、会費及び同門会参加費の免除を行い、名誉会員とする。

第3条（役員の選出）

（1）役員の定数は、理事15名以上（聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室現医局員より5名以上、前者以外の会員より10名以上）監事2名とする。

（2）選挙管理委員会は、任期満了の前年度総会に次役員の選挙が行えるように準備をする。

（3）選挙管理委員会は、立候補者が定数に満たない場合、あるいはなき場合、立候補の推薦を理事会に依頼する。

（4）補欠役員は、理事会で選任し、後日総会で承認を得るものとする。

（5）推薦理事、および名誉理事は前項（1）の定数には含めない。

（6）選出方法は理事会に一任する。

（7）→（3）会長および副会長の選任は理事の互選による。

第4条（慶弔）

会員にかかる慶弔は理事会に一任する。

＜附則＞

第5条（本細則の発効）

本細則は平成9年12月1日から発効する。

本細則は平成11年11月28日から発効する。

本細則は平成12年12月3日から発効する。

本細則は平成16年11月28日から発効する。

本細則は平成17年12月4日から発効する。

第9回理事会議事録

平成17年12月4日

1．会員数、内訳（平成17年12月4日現在）
総会員数；128名
うち現医局員41名、名誉会員5名

2．会員異動
関　　良武　平成17年3月　退職
田中健二郎　平成17年3月　退職
（田中耳鼻咽喉科医院）
西野　裕仁　平成17年3月　退職
（西野耳鼻咽喉科委員）
岡村　　淳　平成17年6月　退職
（岡山大学医学部放射線科）

3．新入会員
矢野　浩之　平成17年4月
大阪医科大学卒
深澤　雅彦　平成17年4月
聖マリアンナ医科大学卒
山口　央一　平成17年4月
聖マリアンナ医科大学卒
向出　光博　平成17年10月
近畿大学卒

4．平成16年度会計報告
（平成16年4月～平成17年3月）

平成15年度繰越金	￥2,052,157	
	収入	支出
平成16年度年会費	¥　740,000	
四門会誌第12号印刷費		¥　420,000
四門会総会会場費		¥　71,000
集合写真		¥　175,000
慶弔費		¥　38,115
通信費		¥　23,720
新潟大学耳鼻咽喉科への		¥1,000,000
寄附（頭頸部外科学会）		
計	¥2,792,157	¥1,727,835
平成17年度への繰越金	¥1,064,322+6（利息）= ¥1,064,328	

5．平成18年度役員人事
平成17年度　聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会役員

会　　長　肥塚　泉
副 会 長　菊地原基敬
推薦理事　肥塚　泉
名誉理事　荻野洋一、竹山　勇、加藤　功、大橋　徹
理　　事　飯田　順、岩澤　寛、岩武博也、芋川英紀、上杉恵介、大竹英夫、小野泰三郎、勝見直樹、菊地原基敬、佐久間惇、関　良武、高橋　姿、戸田行雄、中島博昭、南　　定、宮部　聡、渡来潤次、堤康一朗、佐藤茂樹、越智健太郎、渡辺昭司
監　　事　石倉幹雄、岡田智幸
事務局長　新谷敏晴

敬称略、50音順

6．四門会賞

7．平成18年度総会日時

8．その他

編集後記

「大学病院の使命は、EBMを超越した患者を診療することである」。これは、田中まゆみ著「ハーバードの医師づくり」医学書院の大意である。

事実、EBMの根底にある統計は... Statistics are very important in medicine. But don't get the idea that they tell you everything. As an anonymous Frenchman remarked: 'Statistics are like bikinis: they give an idea, but hide the essential.' (English for Academic purposes series 'Medicine' by David V James). であるし、The Lancetでは、Albert Einstein生誕100周年の機会にこんなコメントを Correspondence に掲載している。Could evidence-based medicine be a danger to progress? と題して、中略 His way of thinking is in sharp contrast to that of evidence-based medicine, which has become almost a dogma in some medical circles. Yet if everything has to be double-blinded, randomised, and evidence-based, where does that leave new ideas? I do worry that if evidence-based medicine becomes the dominant thinking, it could impede advances in medicine. (John Wu. Lancet 2005:366;122)。極論を言えば、「EBMが一人歩きをしている。Einsteinの考えにevidenceはあったのか？EBMが卓越した考えであったなら、医学の発展を妨げる可能性がある。」と言うことである。

学会発表をしても、「誰がオリジナルですか？」とか、「誰かのpaperをmodifyした研究ですか？」、「evidenceはあるのですか？」。先人の研究が必ずあって、その呪縛を拭いきれないのが日本の研究者のようである。先人の研究成果が全て正しいとは限らない。「いいテーマがあったら、まずやってみる。成果が出てから、あるいは失敗してから文献を検索する。文献ばかり読んでいると、いい研究テーマが、既に行われていると錯覚しかねず、やる気を失う」。とは、当教室３代目教授加藤　功先生の恩師である山形大学の小池吉郎名誉教授のお言葉である。

諸先生方、どうお考えでしょうか？

本年春季号の「美蕾」に我が教室が紹介され、当教室にとっていいアピールの場となった。今回で、竹山　勇名誉教授時代の東洋薬事報についで２回目である。益々、臨床に、研究そして忘れてはならない教育に勇往邁進しようではないか。

尚、The Lancetについて、神奈川県リハビリテーションセンター　伊藤裕之先生より文献をご紹介いただきました。　（文責：岡田　智幸）

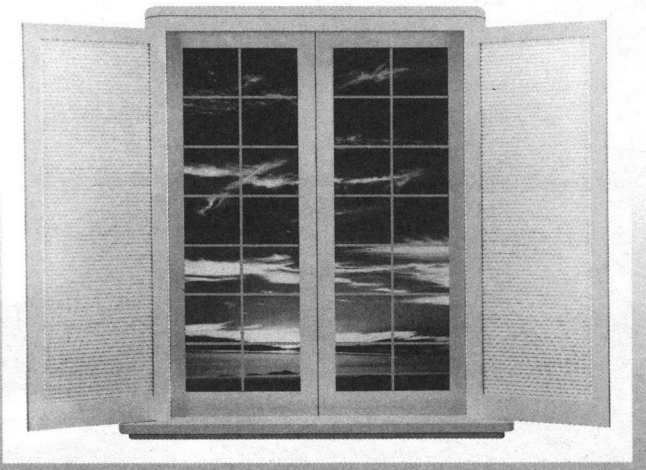
ロイコトリエン受容体拮抗剤　―気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤―

指定医薬品

オノン®カプセル112.5mg

プランルカスト水和物カプセル　ONON®

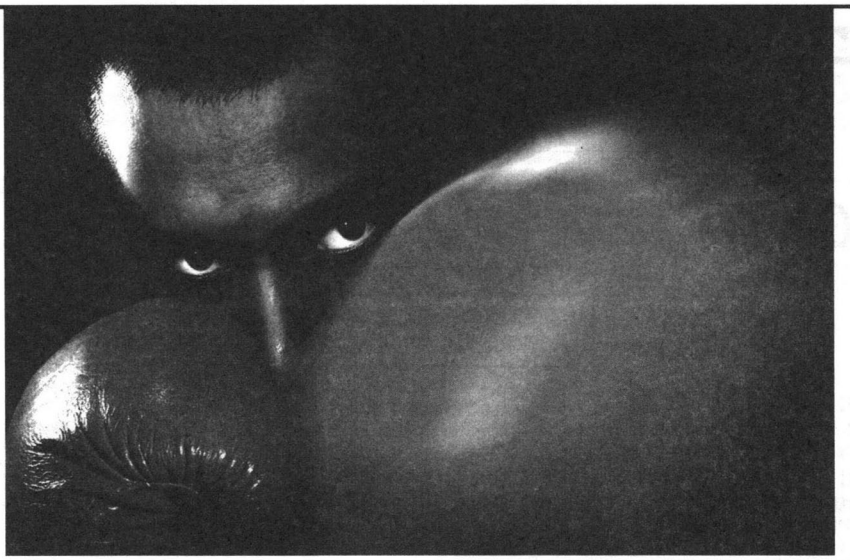
薬価基準収載



●効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等、詳細は製品添付文書をご参照ください。

資料請求先
小野薬品工業株式会社
〒541-8564 大阪市中央区久太郎町1丁目8番2号

051201



KYOWA

●「効能・効果」、「用法・用量」、「使用上の注意事項」は製品添付文書をご参照ください。

アレルギー性疾患治療剤
指定医薬品　〈薬価基準収載〉

アレロック®錠2.5 5

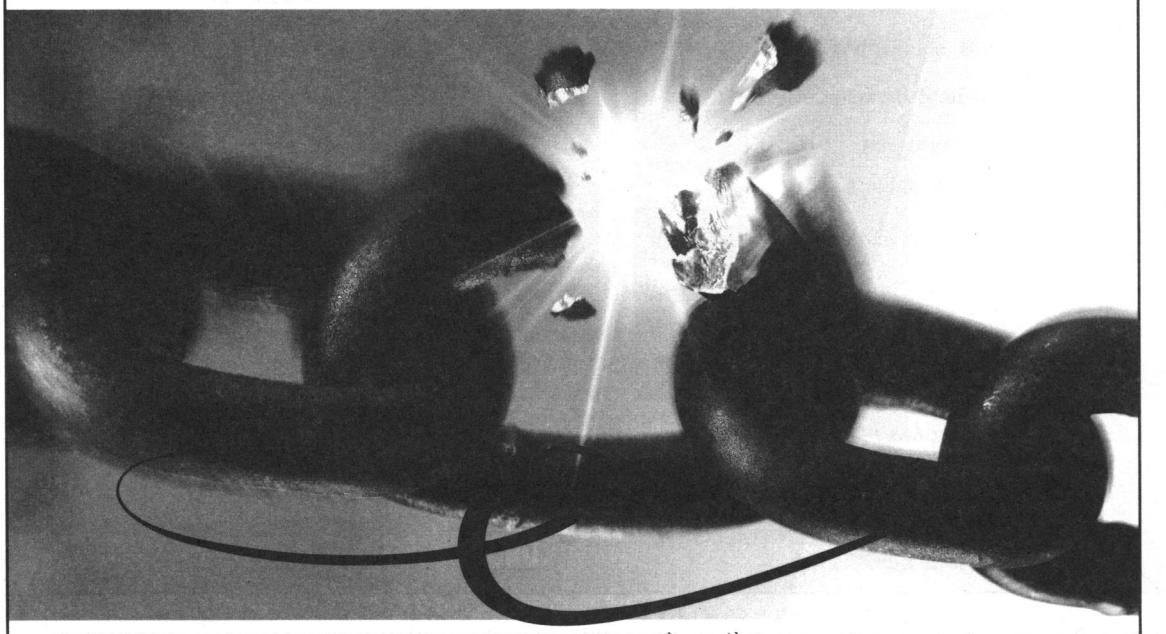
Allelock® Tablets　塩酸オロパタジン製剤 2.5mg・5mg錠

製造販売元　〔資料請求先〕
協和発酵工業株式会社
東京都千代田区大手町1-6-1
http://iyaku.kyowa.co.jp/

プロモーション提携　〔資料請求先〕
杏林製薬株式会社
東京都千代田区神田駿河台2-5

06.04.

sanofi aventis
Because health matters



このパワーには、理由(わけ)がある。

アレルギー性疾患治療剤
指定医薬品　処方せん医薬品(注意－医師等の処方せんにより使用すること)

allegra® アレグラ®錠60mg
塩酸フェキソフェナジン製剤　●薬価基準収載

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】
本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

【効能又は効果】
アレルギー性鼻炎、蕁麻疹、皮膚疾患(湿疹・皮膚炎、皮膚そう痒症、アトピー性皮膚炎)に伴うそう痒

【用法及び用量】
通常、成人には塩酸フェキソフェナジンとして1回60mgを1日2回経口投与する。なお、症状により適宜増減する。

【使用上の注意】(抜粋)
●重要な基本的注意
本剤を季節性の患者に投与する場合は、好発季節を考えて、その直前から投与を開始し、好発季節終了時まで続けることが望ましい。

●相互作用
併用注意(併用に注意すること):制酸剤(水酸化アルミニウム・水酸化マグネシウム含有製剤)、エリスロマイシン

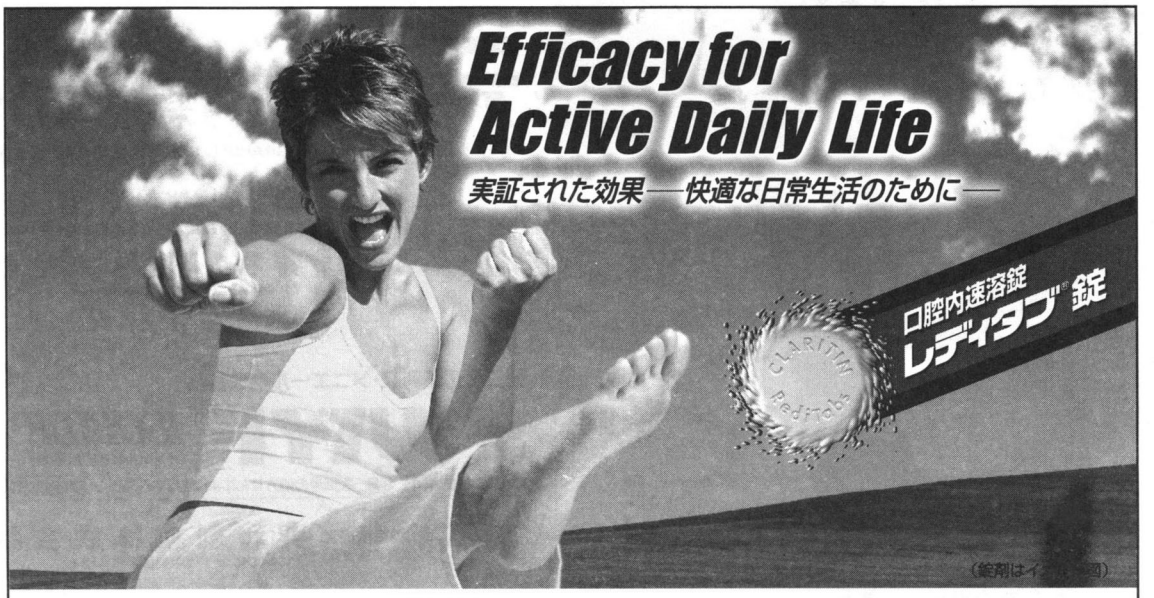
●重大な副作用
1)ショック…ショックを起こすことがあるので、観察を十分に行い、呼吸困難、血圧低下、血管浮腫、胸痛、潮紅等の過敏症状があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
2)肝機能障害、黄疸…AST(GOT)、ALT(GPT)、γ-GTP、Al-P、LDHの上昇等の肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い異常が認められた場合には、投与を中止し、適切な処置を行うこと。

★その他の使用上の注意等の詳細は現品添付文書をご参照ください。
★「禁忌を含む使用上の注意」の改訂には十分ご留意ください。
★資料は当社医薬情報担当者にご請求ください。

2006年1月改訂(第6版)

2006年1月作成　JP.FEX.05.12.07

製造販売:
サノフィ・アベンティス株式会社
〒163-1488 東京都新宿区西新宿三丁目20番2号



クラリチン®の特徴

① 優れた有効性

＜皮膚疾患＞
- 蕁麻疹のそう痒に対し89.1%，発斑に対し87.5%の高い改善率
- アトピー性皮膚炎を含む湿疹・皮膚炎群，皮膚そう痒症の症状を改善

＜アレルギー性鼻炎＞
- 通年性アレルギー性鼻炎に対して，国内では初めて投与3日後に評価し，プラセボ群と比較して有意に鼻症状を改善
- 季節性アレルギー性鼻炎の症状を，投与1日目でプラセボ群と比較して有意に改善（参考：海外データ）

② 高い利便性
- 1日1回投与のアレルギー治療薬*
- クラリチンレディタブ錠は，口腔内で瞬時に溶解し，どこでも水なしで速やかに服用可能

③ 多彩な薬理作用

ヒスタミン拮抗作用（*in vitro*），ヒスタミン遊離抑制作用（参考：海外データ），ロイコトリエンC_4遊離抑制作用（*in vitro*），好酸球浸潤抑制作用（参考：海外データ）等を有する。

④ 世界100ヵ国以上で発売

⑤ 安全性

クラリチン錠10mgの承認時までの臨床試験で，副作用は1653例中，173例（10.47%）に認められた。主なものは，眠気105件（6.35%），倦怠感23件（1.39%）等であった。また，臨床検査値の異常変動は1482例中，72例（4.86%）に認められた。主なものは，ALT（GPT）上昇13件（0.88%），AST（GOT）上昇10件（0.67%）であった。

重大な副作用：ショックを起こすことがある。てんかんの既往のある患者で本剤投与後に発作があらわれたとの報告がある。また，肝機能障害，黄疸があらわれることがある。

＊クラリチンの効能・効果は「アレルギー性鼻炎，蕁麻疹，皮膚疾患（湿疹・皮膚炎，皮膚そう痒症）に伴うそう痒」です。

【禁忌（次の患者には投与しないこと）】
本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

■効能・効果／アレルギー性鼻炎，蕁麻疹，皮膚疾患（湿疹・皮膚炎，皮膚そう痒症）に伴うそう痒

■用法・用量／通常，成人にはロラタジンとして1回10mgを1日1回，食後に経口投与する。なお，年齢・症状により適宜増減する。

■使用上の注意

1. 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）
   (1) 肝障害のある患者［本剤の血漿中濃度が上昇するおそれがある。（「薬物動態」の項参照）］
   (2) 腎障害のある患者［本剤の血漿中濃度が上昇するおそれがある。（「薬物動態」の項参照）］
   (3) 高齢者［「高齢者への投与」及び「薬物動態」の項参照］
2. 重要な基本的注意
   (1) 本剤を季節性の患者に投与する場合は，好発季節を考えて，その直前から投与を開始し，好発季節終了時まで続けることが望ましい。
   (2) レディタブ錠10mgは口腔内で速やかに崩壊することから唾液のみ（水なし）でも服用可能であるが，口腔粘膜から吸収されることはないため，水なしで服用した場合は唾液で飲み込むこと。
3. 相互作用
   併用注意（併用に注意すること）：エリスロマイシン，シメチジン
4. 副作用

承認時までの臨床試験で，副作用は1653例中，173例（10.47%）に認められた。主なものは，眠気105件（6.35%），倦怠感23件（1.39%），腹痛15件（0.91%），口渇15件（0.91%），嘔気・嘔吐9件（0.54%）であった。また，臨床検査値の異常変動は1482例中，72例（4.86%）に認められた。主なものは，ALT（GPT）上昇13件（0.88%），AST（GOT）上昇10件（0.67%）であった。

(1) 重大な副作用
   1) ショック（頻度不明）注）：ショックを起こすことがあるので，チアノーゼ，呼吸困難，血圧低下等の症状があらわれた場合には投与を中止し，適切な処置を行うこと。
   2) てんかん（頻度不明）注）：てんかんの既往のある患者で本剤投与後に発作があらわれたとの報告があるので使用に際しては十分な問診を行うこと。
   3) 肝機能障害，黄疸（頻度不明）：AST（GOT），ALT（GPT），γ-GTP，Al-P，LDH，ビリルビン等の著しい上昇を伴う肝機能障害，黄疸があらわれることがあるので，観察を十分に行い，異常が認められた場合には投与を中止し，適切な処置を行うこと。
   注）外国での市販後等の報告であり頻度不明

● その他の使用上の注意等につきましては，製品添付文書等をご参照下さい。

●【禁忌を含む使用上の注意】の改訂に十分ご留意下さい。

指定医薬品　処方せん医薬品（注意―医師等の処方せんにより使用すること）

持続性選択H_1受容体拮抗・アレルギー性疾患治療剤　薬価基準収載

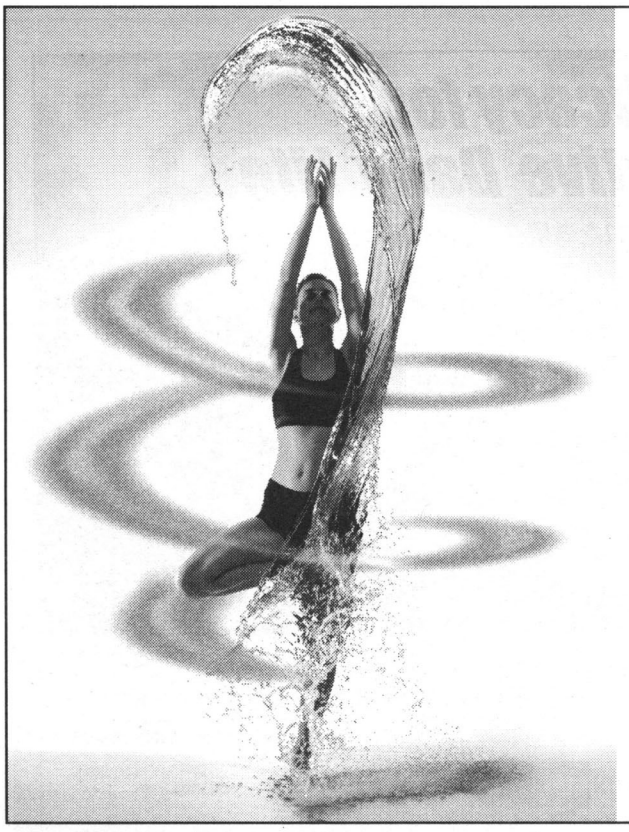
クラリチン®錠10mg レディタブ®錠10mg

ロラタジン錠 / ロラタジン口腔内速溶錠　*Claritin® / Claritin® RediTabs®*

発売元［資料請求先］
シオノギ製薬
大阪市中央区道修町3-1-8　〒541-0045
電話0120-956-734（医薬情報センター）
http://www.shionogi.co.jp/med/

製造販売元
シェリング・プラウ株式会社
〒541-0046　大阪市中央区平野町2-3-7

2005年7月作成B5　®：登録商標



代謝賦活剤

アデホスコーワ顆粒10%

指定医薬品　ADETPHOS KOWA GRANULE 10%（ATP製剤）　薬価基準収載

Kowa

製造販売元
〔資料請求先〕　興和株式會社
〒103-0023 東京都中央区日本橋本町三丁目4-14

販売元　興和創薬株式会社
〒104-0045 東京都中央区築地1-12-6

経口浸透圧利尿・メニエール病改善剤

イソバイド® ISOBIDE
（イソソルビド内用液剤）

処方せん医薬品　注意－医師等の処方せんにより使用すること　薬価基準収載

Kowa

製造販売元
〔資料請求先〕　興和創薬株式会社
〒104-0045 東京都中央区築地1-12-6

※ 効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意については
添付文書をご参照ください。

2006年10月作成

聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会

「四門会」第14号

平成18年11月発行

発　行　聖マリアンナ医科大学
耳鼻咽喉科学教室同門会
電話　044（977）8111（代）
制　作　株式会社　教育広報社

P18　聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会細則　訂正

聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会細則

第３条（役員の選出）

（1）　役員の定数は、理事　15名以上、監事２名とする。

（2）　選出方法は理事会に一任する。

（3）　会長および副会長の選任は理事の互選による。